



続・京都温め予算「追い炊き予算」

京都府知事 山田 啓二

一昨年来の世界的な経済不況に伴い、京都府においても厳しい経済環境と雇用情勢が続き、府民の生活も大きな打撃を受けています。京都府財政も厳しい状況に陥っておりますが、京都府が考えなければならぬのは、府民の生活であり、「今、守らなければ、今、支えなければ、京都府としての役目は果たせない」「府民の皆様を守り、支えることに一刻の空白も生じさせてはならない」という強い決意の下、四月に知事選挙が行われる場合に通例となっており、六月補正も念頭に、府民の「くらしを守る」対策、「生活を支える」対策、そして、未来の京都府のため年度当初から施策を実行すべき「人への投資」について、全力を挙げて取り組みます。

「京都温め予算」の継続・強化

一 「くらしを守る」五つの対策

第一に「生命を守る25億円事業」として、病・学・公が連携した総合医師確保対策やドクターヘリの共同運航などを実施します。第二に「雇用を守る1万7千人雇用創出事業」として、介護・福祉、環境、観光等成長分野に着目した提案公募型事業を新たに行うとともに、雇用基金等を活用した仕事づくり事業を拡充するなど一万余七千人の雇用創出を図ることとしております。第

三に「教育を守る修学支援事業」では、年収三百五十万円未満の世帯の高校生が安心して勉学に打ち込めるように、府内私立高校の平均授業料までの実質無償化など、京都式あんしん修学支援制度を創設します。第四に「家庭を守る総合対策事業」では、複雑・多様化する家庭問題に関し、ワンストップで対応するための「家庭支援総合センター」の開設、母子家庭の母等に対する就職支援として訓練給付金の支給や訪問支援員による訪問就職相談を行うこととしております。第五に「高齢者・障害者を守る生活確保事業」では、後期高齢者医療制度に係る保険料を、原則横ばいに抑制します。

二 「生活を支える」三つの対策

第一に「中小企業を支える不況乗り切り事業」では、金融支援のさらなる強化や、中小企業の今を支える緊急支援として、小規模事業者等の売り上げ向上等につながる取組みや、商店街等が発行する商品券のプレミアム分や発行経費を支援します。第二に「農業を支える明日につながる農業支援事業」では、国の個別所得補償制度の導入に伴い、京の特産物である小豆・野菜について助成額が減少するため、生産農家に対して激変緩和措置などを講じます。第三に「子育てを支える子育てママ・パパ応援事業」として、社会福祉施設等における事業所内

保育所の新設や既存施設の拡充に対する助成制度を創設します。

三 「人への投資」を行う二つの対策

第一に、全国に先駆けて実施してきた「京都未来を担う人づくり事業」では、京都の独創的な事業として一層積極的に展開するため、ものづくり、伝統産業、公共人材、農林業、介護・福祉の各分野において、明日の京都を担う人づくりを行います。第二に、これまでから推進してきた「京都式少人数教育」では、すべての小学校の三・六年生で三十人程度の学級編成が実現できる教員の配置を完了します。

「府民満足最大化プラン」の取組み

府税収入は法人二税の減収などにより、四百二十六億円の減を見込み、平成二十年からの二年間で、法人事業税の一部が移し替えられた地方法人特別譲与税の増額分を差し引いても、約七百億円という大幅な減収を見込んでおります。こうした中、昨年策定した「府民満足最大化プラン」に基づいて、府民ニーズに即した事業の再構築を進めるとともに、給与構造の改革、諸手当の見直しや職員数の削減により人件費を給与の四・三％に相当する削減を行うなど、前年度を上回る総額で百九十五億円の改革を行うなど財源捻出に努めています。